

パキスタン治安情勢

【安全対策連絡協議会 配付資料】



2018. 5. 01
在パキスタン日本国大使館
領事警備班

テロ・治安情勢概況(現状認識)

現状認識と最近の趨勢

- パキスタン国内における2017年のテロ発生総件数は、370件であり、対前年比で16%減、テロ死者数は同比10%減となり、統計上は治安の改善が認められる。政府一体となったテロ対策(軍事作戦、国家行動計画(NAP))が奏功し、テロ事件の発生件数は4年連続で大幅な減少。
※ピーク時(2009年:2,586件、死者数3,021人)から大幅に改善。
- 自爆テロは24件発生し、昨年(2016年)の17件と比べ41%の増加となるも、死者数、負傷者数は減少。
- 主要な攻撃対象は、警察等治安関係者、一般市民、政党関係者、少数宗派関係者等であり、攻撃のソフトターゲット化が進んだ。外国人を意図的に標的とした事案は少ない。
- 軍事作戦(ザルベ・アズブ作戦等)により、ミリタントは大きな打撃を受け、FATAの主要勢力はアフガニスタンに逃避。一方で、依然として、一定頻度で大規模テロ事件が発生。アフガニスタン側から侵入しての越境攻撃が多い。
- アフガニスタンに拠点を置くISホラサンとこれに影響を受けた国境付近の地元ミリタントによるテロ事件も続発。当初、政府はほぼ一貫して国内におけるISの存在を否定したが、2015年7月にISを活動禁止団体指定。最近でも、イスラマバード市内にISの旗が掲示されるなど、パキスタン国内にも信奉者、支援者の存在があることをうかがわせる。
- 2017年5月にクエッタで中国人2名が拉致され、6月、ISが斬首の画像を公表した。中パ経済回廊(CPEC)等で経済協力を進める中パ関係に暗雲を投げかけた。

2013～2017年の治安概況 (出典:パキスタン平和研究所)

	テロ事件数	対前年比	テロ死者数	対前年比
2013年	1717件	9%▲	2451名	20%▲
2014年	1206件	30%▼	1723名	30%▼
2015年	625件	48%▼	1069名	38%▼
2016年	441件	29%▼	908名	15%▼
2017年	370件	16%▼	815名	10%▼

本年上半期の月別テロ件数 (出典:パキスタン平和研究所)

	件数	前月比	死者数	負傷者数
1月	27	7%減	40	70
2月	24	11%減	38	46
3月	25	4%増	37	55
4月		%		

● 2017年のテロ事件数・死者数ともに、対前年比で減少

- 政府一体となったテロ対策(軍事作戦、国家行動計画(NAP))が、テロ抑制に貢献したと評価
- 他方、2017年に発生したテロの特徴として、
 - ① 軍、治安関係者対象のテロが全体の43%
 - ② IEDと銃撃によるテロが全体の81%
 - ③ 自爆テロによる攻撃が急増(前年+4.1%)が挙げられる

○ 州別(2017年)

	イスラマバード首都圏	パンジャブ州	KP州	FATA	バロチスタン州	シンド州(カラチ除く)	カラチ
件数	3	14	71	83	165	7	24
死亡者数	2	61	91	253	288	94	25

○ 宗派間対立によるテロ事件(2017年)

件数20件、死者74名、負傷者106名(前年34件発生、104名死亡、162名負傷)

○ 自爆テロ事件(2017年)

発生件数24件。2010年の68件をピークに、発生件数は減少傾向にある。

2017年の死者数は286名(昨年比25%減)、負傷者数は723名(昨年比15%減)。自爆テロによる民間人死亡者は204名で全死亡者数の40%を占めており、多数の民間人が犠牲となっている。

2011年～2017年の年間テロ発生件数及び死者

年	発生件数	死者	パキスタン平和研究所調べ
2005年	254件	216名	
2006年	657件	907名	
2007年	1306件	1160名	← ラールマスジッド事件(反政府活動)
2008年(大統領選挙)	2577件	2267名	← マリオットホテル自爆テロ
2009年(総選挙)	2586件	3021名	← 発生数、死者数ともピーク
2010年	2113件	2913名	
2011年	1997件	2468名	← ビン・ラディン殺害
2012年	1577件	2050名	← マララ・ユスフザイ銃撃事件(TTP)
2013年(総選挙)	1717件	2451名	
2014年	1205件	1723名	← TTPがカラチ空港襲撃
2015年	625件	1069名	
2016年	441件	908名	
2017年	370件	815名	

【傾向分析】

- 2006年以降、2009年までテロ発生件数、死者とも急増したが、2009年をピークに減少傾向にある。
- 一方、発生件数の減少率と比較して、死亡者の減少率が小さく、負傷者は逆に増加している。
- テロ1件あたりの死傷者数が増加。大量殺害ができるように爆発物を改造、多人数が集まる場所を選定。時間差で2回テロ敢行など

イスラマバード及びラワルピンディ治安情勢

平成30年5月23日
在パキスタン日本国大使館
領事警備班

1 2017年における事件・犯罪等の状況

(1) イスラマバード市（同市警察資料より）

- 一般犯罪総件数 968件（前年比 **12%↓**（前年件数：1089件））
 - 殺人事件 91件（前年比 **5%↓**（前年件数：96件））
 - 誘拐事件 3件（前年比 **200%↑**（前年件数：1件））
 - ダコイト 18件（前年比 **6%↑**（前年件数：17件））
 - 強盗 280件（前年比 **1%↓**（前年件数：282件））
 - 侵入強盗 228件（前年比 **12%↓**（前年件数：259件））
 - 自動車盗 151件（前年比 **40%↓**（前年件数：255件））
 - 二輪車盗 197件（前年比 **18%↑**（前年件数：179件））
- テロ事件 1件（前年件数：0件）

(2) ラワルピンディ市

- 依然として、**一般（軽・凶悪）犯罪発生**の蓋然性が高い。
- イスラマバード新空港開港（5／3）による影響を注視。

2 留意点と対策

(1) 一般犯罪対策

- 夜間や早朝の外出は極力避け、外出する場合は近い距離であっても車を利用し、短時間で効率的に用事をすませることを心掛ける。
- 人の多く集まる場所では、貴重品はバックや上着、ズボンのポケットなど、盗まれやすいところには保管しないよう心掛けるとともに、携行品はいつも手から離さず、やむを得ず手を離しても体に密着するように置く。
- 車を駐車する場合は、警備員のいる駐車場を極力利用するとともに、車の乗降時は周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら速やかにその場から離れる。車に乗り込んでいる間は必ずドアロックをして、すべての窓を閉める。

(2) テロ対策

- 軍及び警察等の治安機関を狙ったテロ攻撃
 - ・ 治安機関は安全安心な存在であるというイメージと裏腹に巻き添えの攻撃にあう危険性がある
- ソフトターゲットである外国人・外国権益等が狙われる危険性（襲撃・誘拐の標的にされる危険性）
 - ・ 外国人であるという認識を持ち、目立った行動は避ける。安全を過信しない。
 - ・ 外国資本による施設や店にはなるべく近寄らず、立ち寄る際には短時間で用事を済ませる。
- テロリストの大都市等への逃走、移動拡散（いつどこでテロは起きるか分からない）
 - ・ 2017年11月29日、イスラマバード市内I-8地区所在のシーア派モスクにおいて、テロ事件（標的型殺人）が発生。
 - ・ 2018年4月14日、イスラマバード市内G-14地区において、武器・弾薬・自爆ベスト等を押収→潜在的なテロの脅威下にある。

(3) 当地で生活又は活動する上での危険度の再認識

- 海外で安全に暮らす3原則（**①目立たない。②用心を怠らない。③行動を予知されない。**）
- 自らの**安全の確保を第一**に考えた行動を心掛け、**治安が不安定な地域への入域を控える。**
- 情報には敏感に、最新の情報を入手し、それに伴った行動をとる。
- 平素より自宅周辺、通勤・通学上の周囲の状況に関心を払い、わずかな変化の「兆し」を見逃さない。

イスラマバードにおける一般犯罪発生状況(2015年～2017年)

出典:イスラマバード警察HP

	2015年	2016年	2017年
殺人	115	96	91
誘拐	7	1	3
ダコイト	33	17	18
強盗	328	282	280
侵入強盗	300	259	228
自動車盗	369	255	151
二輪車盗	263	179	197
合計	1415	1089	968

【備考】

- ・イスラマバード市人口:約143万人(2016年調査)
- ・銃器を使用した犯罪が特徴(銃器が容易に手に入ることによる蔓延が要因)
犯罪件数は、年々減少傾向にある。

イスラマバード及びラワルピンディで最近発生した事件(2018年1月から3月)

- (1) 2017年12月29日、G-10セクター所在の中国人女性宅に3人組の強盗が押し入り、被害者の中国人に発砲。中国人は搬送先の病院で1月に死亡した。
- (2) 1月1日、G-10セクター所在の住居に強盗が押し入り、宝石、現金等を強奪して逃走した。
- (3) 1月3日、F-11セクター内マーケットにおいて、イスラマバード警察の職務質問を受けた男がショットガン、拳銃等を所持していたため逮捕された。
- (4) 1月5日、イスラマバード市内において、警察が武器や麻薬倉庫を摘発し、43名の被疑者を逮捕した。
- (5) 1月6日、F-8セクターに所在するパキスタン人女性宅に何者かが侵入し、同人所有の車両のほか、パソコンや現金等を窃取し逃走した。
- (6) 1月7日、イスラマバード空港で、拳銃を所持してイスラマバードからラホールに向かう便に搭乗しようとした女を空港警察が逮捕。ハイジャック未遂事件として捜査を行っている。
- (7) 1月11日、イスラマバード警察は、I-8セクター所在のケアセンターから6か月の乳児を誘拐した容疑で女を逮捕した。
- (8) 1月26日、イスラマバード警察が、バイクに乗車した不審な若者に職務質問しようとしたところ、突然警察官に向かって発砲し逃走した。
- (9) 1月28日、イスラマバード警察は、偽の制服を着用するなどして警察に扮し市民から携帯電話等を押収していた被疑者を逮捕した。
- (10) 2月10日、F-10セクターにおいて、ゲストハウス内で2名が殺害されているのが発見された。
- (11) 2月11日、イスラマバード警察とパキスタンレンジャーは合同摘発を行い、多数の武器弾薬を倉庫に隠匿していた男14名を逮捕した。
- (12) 2月13日、G-8セクター所在のメトロバス停車駅舎に、何者かが拳銃を発射した。幸いにも怪我人はいなかった。
- (13) 2月22日、イスラマバード市内のチェックポイントで検問中の警察官が、通りかかった不審なバイクを停車させようとしたところ、バイクに乗車の男が突然拳銃を発砲し、警察官が負傷した。
- (14) 3月1日、I-10セクターの幹線道路において、2名が車両で移動中、何者かによって突然銃撃され死亡した。
- (15) 3月2日、イスラマバード市内において、銀行から100万ルピーを下ろした男性が銀行から出てきたところ、バイクに乗車した二人組の男が、被害者が所持していた現金入りのバッグを引ったくり逃走した。
- (16) 3月14日、G-8セクター内に駐車されている車両の中で、男性が殺害されているのが発見された。
- (17) 3月17日、イスラマバード市において、ポリオ接種チームに所属する女性が、「仕事に行く」と家族に言い残して自宅から出て行ったきり、行方不明となった。警察では誘拐事件として捜査を開始した。

邦人又は外国人関連事件(2011年～)

【邦人が被害にあった事件】

- 2011年 6月 邦人宅不審者侵入事案
6月 邦人宅銃弾投げ込み事案
8月 邦人宅窃盗被害
2015年 7月 邦人に対する強盗（ガンポイント）事件（F9 ジンナーAve）
10月 邦人に対する強盗（ガンポイント）事件（パンジャブ州カラ・カハール）
12月 邦人宅侵入窃盗被害（F8-3）

【外国人が被害にあった事件】

- 2011年 1月 伊大使館員強盗被害（G-6/4 地区自宅）
2月 中国人女性殺害事件（I-8 地区アパート）
2012年 12月 バングラデシュ大使館員盗難被害（F-6/3 運動場付近）
2013年 1月 ベルギー大使館員強盗被害（F-6/3 地区住宅）
3月 ヨルダン大使館員強盗被害（F-11/2 地区住宅）
6月 アフガン大使館員強盗・銃撃被害（F-10 地区マーケット）
2014年 2月 アイルランド人女性窃盗被害（F-6 地区マーケット）
5月 イエメン大次席誘拐未遂事案（G-10 地区住宅）
8月 ベルギー大使家族強盗未遂事案（7th Avenue）
2015年 5月 ボスニア人女性外交官窃盗被害（F-7 地区ジンナーマーケット）
6月 中国人窃盗被害（マルガラ登山中）
8月 フィリピン大館員宅侵入強盗被害（F7-4 地区住宅）
2017年 1月 伊大館員に対する偽警官強盗被害（F7-4 路上）
6月 中国人業務上トラブルに係る暴行事件（F7 ジンナーマーケット内）
10月 豪人女性拳銃強盗被害（F6 スーパーマーケット）
10月 中国人長期滞在者強盗（ガンポイント）被害（ラウルピンディー市内）
12月 中国人女性宅強盗殺人事件（G-10/4 地区自宅）

テロ・一般犯罪等被害に巻き込まれないために

1 テロ対策

- テロの標的となりやすい場所にはできる限り近づかない。
(米国関連施設、米国系有名ホテルやファースト・フード店を含む欧米関連施設、政府機関・軍・警察等治安当局施設(車両、検問所等含む。)、宗教関連施設)
- 外国人の多く集まる場所や外国人が多く利用する商業施設等の利用は短時間とし、長時間の滞在は極力控える。
(外国資本のホテルやファーストフード店、国連関係機関、レストラン等)
- デモや集会を見かけたら絶対に近づかず、その場から速やかに回避する。
- マーケットやバス停など人が集まる場所での用事は、短時間で効率的に行なうとともに、常に周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、速やかにその場から離れる。また、特に夜間の人が多く集まる時間帯は極力避けるよう心掛ける。
- パキスタン各地への出張を行う場合には、安全上の情報収集・分析を常に怠らないことはもちろんのこと、その出張の必要性とリスクを比較の上、実施するとの結果に至った場合には、移動間及び活動現場の警備を強化する等十分な安全対策を講じる。
- 車両等にて長距離を移動する場合は、幹線道路であってもできるだけ明るい時間帯を選び、日没後の移動は極力避ける。
その際も、トラック・デポ(多数のトラックが駐車・待機している区画)付近への立ち寄りには避ける。また、郊外に赴く場合には、その地域の情報に十分注意を払い、必要な場合には、十分な警備体制をとる。
- テロリストは身近なところに潜んでいる。目立つ行動や騒がしい行為は極力控える。

2 一般犯罪対策

- 夜間や早朝の外出は極力避ける。外出する場合は近い距離であっても車を利用し、短時間で効率的に用事をすませるよう心掛ける。
- 人の多く集まる場所では、貴重品はバックや上着、ズボンのポケットなど、盗まれやすいところには保管しないよう心掛けるとともに、携行品はいつも手から離さず、やむを得ず手を離しても体に密着するように置く。
- ホテル客室での滞在中は、常に客室入り口ドアをチェーンロック等も併せて施錠しておく。
- 訪問者が来訪した場合には、ドアを開ける前に必ず相手の身分を確認する。

3 空き巣対策

- 留守時はもちろんのこと、在宅時であっても必ず施錠するとともに、ドアに備え付けてある門を併用する。
- 来訪者がきた場合、門・ドアを開ける前に必ず相手の人定事項を確認する。警備員がいる場合には、独自の判断で門扉を開けないよう指導する。
- 使用人を雇用している場合、いかなる理由があっても第三者を勝手に住居内に立ち入らせないよう指導する。
- 不幸にして強盗に遭った場合には、被害を大きくしないためにも決して抵抗しない。

4 車両移動時等

- 駐車して車を離れる場合には、警備員のいる駐車場を極力利用するとともに、荷物を車内の見えるところに残さない。
- 車の乗降時は周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら速やかにその場から離れる。
- 車両での移動中はドアロックをして全ての窓を閉め、信号等で停止した時などは、拳銃強盗などの強奪の対象となるのでスマートホンや貴重品を外から見えないようにしまう。
- 車間距離を十分に取り、緊急時には方向転換出来るようなスペースを常に意識する。
- 検問所以外で、治安機関による職務質問があった場合には、偽警官の疑いもあるので安易に降車しない。少しでも不審点を感じたら「15」（警察）に電話して在籍確認を行う。

5 ラマダン時期の注意事項

- ラマダン期間中の夕方頃はイフタール（日没後にとる食事）のため、家路を急ぐあまり車のスピードの出し過ぎ、注意力の散漫等が相まって、交通事故が多発する傾向にある。
- 交通事故が発生した場合、双方の運転手はもとより、野次馬までもが異常な興奮状態に陥り、過去には集団で交通事故の当事者に暴行を加えて死傷事件に発展したケースも散見される。
- 自動車を運転する際は、車間距離を十分にとり、細心の注意を払い運転することはもちろん、普段以上に他車の動きにも気を配ることが大切。また、運転手を雇用している方は、運転手の精神状態、仕草、様子をよく観察し、興奮している場合には諫める必要がある。

テロの特徴と対処方法

領事局海外邦人安全課
邦人テロ対策室



外務省

Ministry of Foreign Affairs

無差別テロの特徴

- * 少ない労力で最大の被害(殺傷)を狙うため、人が多数いる場所や時間を狙う。

○場所(例)

人通りが多い → 駅, 空港, バスターミナル,
多数集まる → 観光地, 宗教施設, ショッピングセンター,
競技場, 劇場, 市場, ホテルのロビー,
レストラン, デモ会場, パーティー, イベント会場

○時間(例)

朝夕のラッシュ時, イベント開催時間帯, 週末の夜,
休日の日中, 金曜礼拝の時間帯。

爆弾テロと銃乱射事件の特徴

○爆弾テロの特徴

- * 市場、宗教施設等多数の人が集まる場所に仕掛ける。
- * 1回目の爆発で人が集まったところで2回目の爆発を行うことがある。
- * 自爆テロという手段も多く見られる。
- * 爆発による的・直接的な被害の他、爆風に伴う体内気圧の変化による肺・鼓膜の損傷もある。
- * ガラスの飛散による負傷もある。
- * ナイトクラブや列車等の密閉空間では少量の爆弾で大きな殺傷効果。
- * 避難者による将棋倒しによる圧死ということもある。

○銃乱射事件の特徴

- * 殺傷力の高い自動小銃を使用。
- * 可能な限り多数の人々を殺傷することが目的のため、弾薬がなくなるまで乱射し、執拗に生存者を探す。
- * 犯人は、出入口付近で避難者を待ち受けることがある。
- * 犯人が立てこもることもあり、負傷者の救出に時間を要する場合もある。

テロの被害を受けないための事前対策 その1



(基本事項)

- * 危ない国・場所・時間帯を避ける。
- * 用心を怠らない(周りの情勢に気を配る)。
- * 在留届や「たびレジ」に登録する。

(選定・確認・習慣)

- * 十分な安全対策をとっている施設・ホテルを滞在先に選ぶ。
- * 現地の治安情勢に応じて交通手段を選ぶ。
- * レストランでは、オープンスペースや出入り口付近, ガラス戸近くを避け, 奥の壁際か柱の近くに席をとる。
- * 宿泊先やレストラン, 会場では利用時に非常口や退避ルートを確認する。
- * 人混みを避ける。防御壁になるものを見つける習慣をつける。
- * 不用意に外部に情報を漏らさない。
- * 家族や会社との間で緊急時の集合場所を決めておく。
- * 定型パターンの行動を避ける。

テロの被害を受けないための事前対策 その2



(服装)

- * 目立つ服装, 目立つ車, 目立つ行動を避ける。
- * イヤホン等で音楽を聞くなどして外部の音を遮断しない。
- * 避難できる服装を着用 (ハイヒール, サンドル, 半ズボン是高リスク)。

(立ち寄らない, 通行しない, 滞在は短く)

- * 宗教関連施設, 軍・警察施設, 外国関連施設にはなるべく近づかない。
- * ガラスを多く使用した建物にはなるべく近づかない。
- * 人が多く集まる場所にいる時間をできるだけ短くする。
(空港の受付カウンター, ホテルのロビー等)
- * 大きな荷物, 不自然な厚着, 不審者, 不審物には近づかない。

テロに遭遇した場合の対処方法 その1

(どんな場合でも)

- * 爆発音・銃撃音が聞こえたら直ちに伏せる。
- * 頑丈な物陰に隠れる。
- * できるだけ速やかに現場から離れ近寄らない。
- * 避難する時間がない、または襲撃対象となりうる場合は隠れる。
- * 群衆パニックに巻き込まれない。将棋倒しに注意。
- * 現場から逃げることができたなら、体に異常がないか確認する。

テロに遭遇した場合の対処方法 その2

(爆発テロ事件の場合)

- * カバン等で頭部を保護し、姿勢を低くして爆発時点から離れる。
- * 爆発に遭遇した瞬間は、肺の損傷を防ぐため「少し口を開け」、首と鼓膜の損傷を避けるため「首の後ろを手の平で覆い、耳をふさぎ」、目を守るため「目を閉じる」。
- * 複数の爆発物が仕掛けられている可能性に注意。

テロに遭遇した場合の対処方法 その3

(銃撃事件の場合)

- * 低い姿勢で、ジグザグに逃げる。
- * 壁際から離れて逃げる。
- * 安全に逃げるため、周りの動きをよく見る。
- * 不用意に動くと狙い撃ちされるので、叫ばない、目立たない。
- * 防御物となる硬い物体を探す。

(現場から離れたら)

- * スマートフォン、テレビ、ラジオ等で情報収集。
- * 関係者に安否報告。
- * 事件発生を警察に通報する。
- * 大使館/総領事館に連絡する。

テロに遭遇し、隠れた・閉じ込められた場合の対処方法 その1

(入らせない)

- * 出入口にカギをかけ、バリケード化する。

(被害に遭わないために)

- * 立たない。ドアや廊下側の壁際に近寄らない。できるだけ頑丈な物陰に隠れる。

(気づかれないために)

- * 室内の電気を消す。
- * カーテンを閉める。
- * 物音を立てない。
- * テロリストに察知されないよう着信音を消すため携帯電話の電源を切る。

テロに遭遇し、隠れた・閉じ込められた場合の対処方法 その2

(正常な状態に対応するために)

- * とにかく落ち着き、正常な判断や対応ができる精神状態に戻す。深呼吸する。
- * 犯人の動きや気配を物音で観察し、安全に逃げられるようであれば逃げることも考える。
- * パニックを起こしている人へは、静かにゆっくり話す、ゆっくり動く。
- * 粉塵を吸い込まないようにハンカチ等で口と鼻を覆う。

(隠れていることを通報する、救助要請のために)

- * 携帯でメールを送信できる状況であれば送信。その後、一定間隔で送信。電池残量が不安ならば電源を切る。
- * 閉じ込められて救助を呼ぶ場合は、一定間隔で物を叩いて知らせる（大声を出せば体力を消耗する）。